

はじめに

企業経営漫談士 岡野実空

「企業経営漫談士」は2011年2月10日、特許庁に商標として正式登録されました。

「漫談」は、大正時代に始まった風刺や批判を交えて世相風俗・時事問題などを面白おかしく語る話芸であり、私たちはそれを現在「企業経営」の領域で行っています。因みに登録区分は第41類。該当する活動は、知識の教授、セミナーの企画・運営又は開催。具体的には、「企業経営漫談の会」や忘年会ならぬ「想年会」、顧客企業などでの口演が中心です。

今回はそれに加え、経営に関する私たちの知見を「漫談コラム」にまとめ、NPO法人マネジメント共育ネットワーク(以下MCNと標記)のホームページに掲載していく企画です。その第一弾が、平成の期間中、毎週月曜に連載予定の「三々な経営」シリーズ。私たちは「企業経営漫談士協会」を母体とし、2011年の11月にNPO法人として正式にスタートしましたが、今回のコラムも、「ふつうの人をイノベーターにし、ふつうの組織にイノベーションを興す触媒となる」という私たちのビジョン実現に向けた活動の一環です。このコラムが皆さまのお役に立つことを祈っています。えう、ご期待！

1. 全体構成

さて今回の「三々な経営」シリーズは、企業経営をまず、「1. 環境のマネジメント」「2. 組織のマネジメント」「3. 矛盾と発展のマネジメント」という枠組みでとらえます。因みにこの枠組みは、MCNが企業のマネジャー層を対象に行っているマネジメント教育の基本テキスト『ゼミナール経営学入門』(伊丹敬之・加護野忠男共著、日本経済新聞社刊、第3版)の構成に沿ったものです。

また私たちにとってバイブルでもあるこの図書は、以上の3つに「企業と経営者」を加え4部構成になっていますが、経営全体をカバーするその要素について、このコラムでは別格(0)として扱っています。またその枠に収まらない多くのテーマについては、番外(E)として取り上げました。

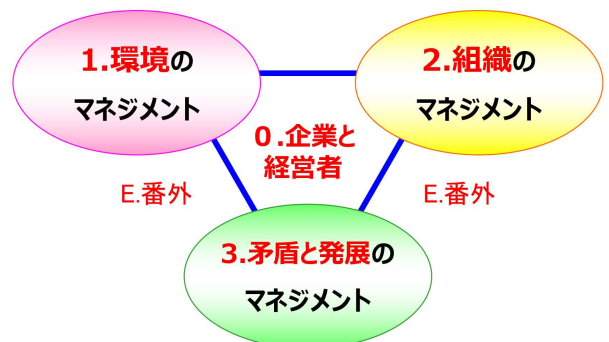
2. 部分構成

また次回のコラムで解説するように、各テーマについては「ふつうのマネジャー」を対象として、必ず3つの要素や段階に分け、それぞれやそれらの関係を分かりやすく解説していきます。但し、3つの要素の「総体」や「本質」の概念が必要な場合は、3+1の表記になっていることを予めご理解ください。(初出2017年2月6日)

3. 改訂にあたって

経営漫談コラム「三々な経営」は、2019年6月24日の150号をもって終了しました。2017年2月の開始以来、約2年半の間に、多くの方からご意見や感想をいただき、厚く御礼申し上げます。

KM0-1 コラムの全体構成



しかしこの激動の時代、その間に状況が大きく変化し、すでに見直すべき内容も多々見受けられます。ということで、これから2か月の予定で、項目順に必要な部分の加筆修正に努めます。新たな概念は盛り込みませんが、これまでの振り返りを兼ね、適宜その変更内容をご確認ください。

さて昨7月1日、私が最も尊敬し、このコラムにしばしばご登場願う経営者、菱食(現三菱食品)元会長の廣田正氏を仲間10名とお訪ねし、その警咳に接しました。そこでとても86歳とは思えない豊饒とした言動から大いなる刺激(喝!)を受け、予定を急遽繰り上げて、本日より改訂を開始した次第です。さらに今秋からは、同じMCNのHPに新シリーズのコラムを掲載する予定です。この改定版に引き続き、ぜひご笑読ください。

今後ともMCNをご支援のほど、よろしく願いいたします。

2019年7月2日 実空